

令和5年度二本松城跡三ノ丸西側高石垣解体調査

1. 遺跡名 二本松城跡（二本松市郭内三丁目地内）
2. 時代・種類 室町～江戸時代 城館跡（平山城）
3. 調査場所 二本松市郭内三丁目三ノ丸高石垣西側 現況 公園
4. 調査面積 11.34㎡（1.8m×6.3m）
5. 調査期間 令和5年8月1日(火)～令和5年9月15日(金)予定
6. 調査主体 二本松市教育委員会
7. 調査指導者 二本松城跡石垣等災害復旧工事指導会議
8. 調査目的 令和4年3月発生 of 福島県沖地震で三ノ丸高石垣の西側では、北側で中央付近が大きくハラミ、数値で最大 23.1 cm外側に飛び出しました。この被災した箇所を修復するとともに、解体に合わせて石垣の構造確認を目的とした調査を実施した。

9. 調査結果概要

調査方法 ハラミの大きかった北側の部分に外す築石に番号を振り、最小限で安全に外せる範囲を確定し、上段から築石と裏込石、裏土を1段ずつ下げ、平面での遺構の有無の確認と断面観察による確認を行った。

基本層序 L1は表土、L2は現代の盛土層、L3は幕末の旧表土、L4は寛永初期の盛土、L5は風化花崗岩層（地山）である。北側については谷地形を整地している。

調査結果

築石を解体した背面の状況

築石を外す前の観察でも南側より小さい築石を使用していることを確認していたことから、江戸期に積んだものではない可能性を想定して調査を開始した。



二本松御城郭全図の一部抜粋

現在、築石を一段ずつ外し、背面を確認しながら10段の築石を解体した。天端から3段目までは昭和57年に造られた塀による攪乱が深さ1mまで見られ、裏栗石も幅1m程度の中に土と一緒に埋め戻されている。3段目からは、盛土による埋戻し土と裏栗石（玉石）が見られるが裏栗石の量が少ない状況であった。5段目の背面からは黒褐色土を切って石垣を積んでいる状況が確認された。裏栗石幅は、上部よりさらに狭い造りになっている。旧表土より上面の盛土からはガラス片等が混入している。よって、解体した石垣は明治から昭和初期に積まれたものと判明した。



北面の断面

平面と同様に、寛永期の盛土面を切って成形して積んでいるのが明らかとなり、築石が明治から昭和初期に積まれたものであることが明らかとなった。

北側と背面の状況

南面の築石と隅角部の発見

築石の3段目を除去した段階で、縦 50 cm×横 60 cm×奥行 50 cmの巨石が確認された。さらに、5段目でも巨石の下にさらに縦 50×幅 80 cmの巨石が重なった状態で確認された。このため、この石は、南側にある高石垣の裏栗石を押さえるためのものと考えられ、寛永初期に造られた当初の隅角部の構造を示したものと考えられ、今回の解体調査で築造当初の姿が初めて明らかとなった。



今回確認された江戸期（寛永初期）の石垣隅角部

2T 高石垣西側石垣の中央に設定した2×5mのトレンチ。昭和57年に造られた堀による攪乱が見られるが、裏栗石は1石目の半分から幅約1.2m確認された。さらに、2石目からは江戸期の裏栗石（玉石）が確認され、幅約1.6m確認されている。遺構・遺物は検出されていないが、築石と築石の間に尻飼石を入れている状況などから寛永初期の様相を示すものと考えられる。



まとめ

今回解体した石垣の裏栗石は幅が狭いことが確認された。今回修復する部分は、石垣が無い時期があり、その際に土砂の流出があったため、その流出押えるために石垣を積んだことが判明した。

また、今回解体した石垣は、明治から昭和初期（S10年）までに積まれた石垣と判明した。南側の断面から、裏栗石が出ないように押さえる巨石2個を発見したことから、南側が寛永初期の石垣隅角部の範囲であると判断された。

今回修復する石垣と修復しない2T側の石垣では裏栗石の幅、量が違うことも判明した。これは、築造時期の違いが関係している。

なお、詳細については十分検討し、本報告書において詳述していく予定である。

今後は、江戸時代の工法を用いて裏込石の控えの長さを1～1.6mに増やし、築石を元の位置に戻しながら修築していく計画である。

石垣の修理

史跡の今回石垣修理では、築石や間詰石の脱落やハラミだしなど、崩れる危険がある箇所を補強したり、解体して積直し・復旧するなどの作業をします。石垣解体の主な工程は、下の写真のとおりです。これらの作業の前に、石垣上面の発掘調査を実施して、建物や塀の痕跡なども調査します。



①【解体修理前】今回北側部分が大きく孕んでいます。写真や測量図など、修理前の記録を作成し、修理計画を立てます。



②【石材番号の附番】解体前に石材1点ずつに番号を付けます。元通りに積み直すため、測量図にも同じ番号を記しておきます。



③【解体】1石ずつ取外しながら、下の石との重なり方も記録します。石は、仮置き場で保管します。



④【石材調査】解体した石材は、大きさ、種類、状態など細かく観察して記録します。

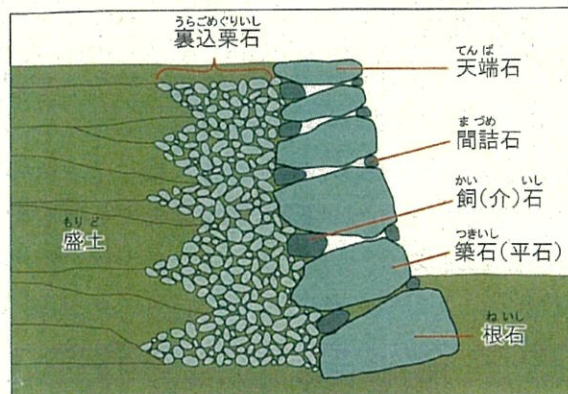
⑤【内部の発掘調査】裏込めや盛土など、石垣の築造工程についても調査します。



⑥【積直し・復旧】全ての調査が終了した後、築石を元の状態に積直し、復旧していきます。

⑦【積直し・復旧】最後に間詰を行います。石の脱落が目立っていた場所は、新しく補充します。

⑧【積直し・復旧】写真や測量図で、修理後の状態や、交換した石材などの記録を残します。



石垣の断面構造模式図